

Jプレミアム・インカムファンド (年4回決算型)

運用報告書 (全体版) (第6作成期)

第10期 (決算日 2025年1月28日)

第11期 (決算日 2025年4月28日)

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2022年7月27日から2027年10月28日まで	
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。	
主要運用対象	外国投資信託証券である「UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)」および国内の証券投資信託である「マネーアカウントマザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。	
	UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)	担保付スワップ取引を通じて、実質的に代表的な日本の株価指数を原資産としたプットオプションを売却する想定上の取引戦略に対するエクスポージャーを提供することにより、中長期的な資本成長の提供を目指して運用を行います。
	マネーアカウントマザーファンド	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。	
分配方針	毎決算時(1月、4月、7月、10月の各28日、休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。分配金額は、分配対象額の範囲内で、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
さて、「Jプレミアム・インカムファンド(年4回決算型)」は、2025年4月28日に第11期決算を行いましたので、第10期から第11期の運用状況をご報告申し上げます。
今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 T&Dアセットマネジメント株式会社
〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先
投信営業部 03-6722-4810
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)
<https://www.tdasset.co.jp/>

最近5作成期の運用実績、基準価額の推移等

最近5作成期の運用実績

作成期	決算期	基準価額			債券組入比率	債券先物比率	UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)組入比率	純資産額
		(分配落)	税込み分配金	期中騰落率				
第2作成期	2期(2023年1月30日)	円 10,057	円 50	% 0.6	% —	% —	% 98.5	百万円 1,584
	3期(2023年4月28日)	10,019	50	0.1	—	—	98.3	2,831
第3作成期	4期(2023年7月28日)	9,994	50	0.2	—	—	98.2	4,596
	5期(2023年10月30日)	9,967	50	0.2	—	—	97.9	8,012
第4作成期	6期(2024年1月29日)	9,952	50	0.4	—	—	98.2	8,140
	7期(2024年4月30日)	9,920	45	0.1	0.3	—	98.4	8,045
第5作成期	8期(2024年7月29日)	9,888	45	0.1	0.3	—	98.2	7,897
	9期(2024年10月28日)	9,862	45	0.2	0.3	—	98.3	3,538
第6作成期	10期(2025年1月28日)	10,014	50	2.0	0.3	—	98.2	3,406
	11期(2025年4月28日)	10,022	50	0.6	0.3	—	98.1	3,285

(注) 基準価額および分配金は1万口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること、特定の指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当作成期中の基準価額等の推移

年 月 日	基準価額		債券組入比率	債券先物比率	UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)組入比率	
	円	% 騰落率				
第10期	期首(第9期末) 2024年10月28日	円 9,862	% —	% 0.3	% —	% 98.3
	10月末	9,966	1.1	0.3	—	98.6
	11月末	10,013	1.5	0.3	—	98.2
	12月末	10,043	1.8	0.3	—	98.2
	期 末 2025年1月28日	10,064	2.0	0.3	—	98.2
第11期	期首(第10期末) 2025年1月28日	10,014	—	0.3	—	98.2
	1月末	10,010	△ 0.0	0.3	—	98.3
	2月末	10,030	0.2	0.3	—	98.2
	3月末	10,055	0.4	0.3	—	98.2
	期 末 2025年4月28日	10,072	0.6	0.3	—	98.1

(注) 基準価額は1万口当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。

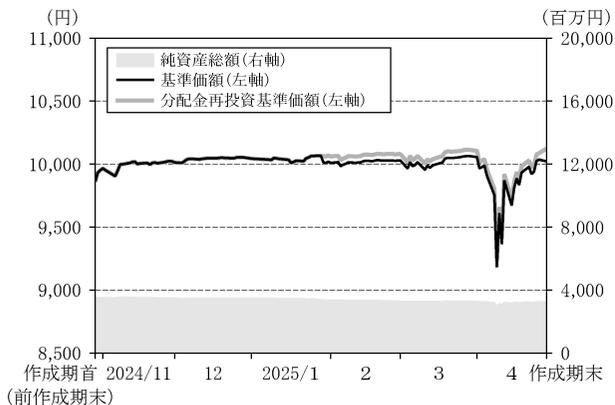
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること、特定の指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当作成期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



第10期首：9,862円

第11期末：10,022円(既払分配金100円)

騰落率：2.6%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2024年10月28日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

高位に組入れている「UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)」において、プットオプションの売却によるプレミアムがプラス寄与した結果、基準価額(分配金再投資ベース)は上昇しました。

■ 組入ファンドの当作成期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)	3.3%
マネーアカウントマザーファンド	0.2

■ 投資環境

【株式市況】

日経平均株価は、作成期初から2024年12月末にかけては、米大統領選挙で勝利したトランプ氏の関税強化策への警戒感が重荷となる局面もありましたが、米景気の底堅さや為替市場での円安進行などを支えに上昇しました。年明け後は、米政権によるAI(人工知能)向け先端半導体を巡る輸出規制の見直し案発表や、トランプ米大統領の関税政策を巡る不透明感、日銀の追加利上げ観測の強まりを受けた為替市場での円高進行、発表された米経済指標の結果が相次いで市場予想を下回ったことによる米景気の減速懸念などが重荷となり、2025年3月上旬にかけて下落しました。3月中旬には、米著名投資家による日本の商社株買い増し報道が好感される局面などもありましたが、その後は、トランプ米大統領が発表した相互関税が想定以上に厳しい内容となったことや、中国が報復関税を発表したことで、関税の応酬が世界経済の急減速につながるなどの警戒感が広がり、4月上旬にかけて大幅に下落する展開となりました。作成期末にかけては、米政権が相互関税の一部を適用猶予すると表明したことや、米中貿易摩擦が緩和に向かうとの観測が広がったことが好感され、下げ幅を縮小しました。

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、作成期首の0.02%に対し、作成期末は0.38%となりました。作成期中においては、日銀の追加利上げに対する思惑や国庫短期証券の入札に伴う需給悪化懸念などが金利上昇要因となり、金融機関の担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

作成期を通じて、「UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)」を高位に組入れ、「マネーアカウンタマザーファンド」にも投資を行いました。

【UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)】

UBS AG ロンドン支店を相手方とする担保付スワップ取引を通じて、日経平均株価を原資産とした満期約1ヵ月、権利行使価格が日経平均株価の92%となるプットオプションの売却を行う戦略である日本株式プレミアム戦略の投資成果を実質的に享受することを目指す運用を行いました。

【マネーアカウンタマザーファンド】

国庫短期証券を60%程度組入れました。残りの資産については、コール・ローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 分配金

1万口当たりの分配金(税込み)は基準価額水準、市況動向等を勘案し、第10期、第11期ともに50円とさせていただきます。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

「UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)」の組入比率を高位に保ち、もう一方の投資対象である「マネーアカウントマザーファンド」への投資も継続する方針です。

【UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(分配型クラス)】

担保付スワップ取引を通じて、実質的に日経平均株価を原資産とした満期約1ヵ月のプットオプションの売却を行います。売却するプットオプションの権利行使価格をプットオプション構築時の日経平均株価の92%とすることで、日経平均株価の下落による損失を低減しつつ、プレミアムの獲得を目指します。

【マネーアカウントマザーファンド】

日本経済は、雇用・所得環境が改善する下で緩やかな回復が続くことが期待されます。インフレ率については、プラス圏で推移していくと予想されます。こうしたなか、日銀は利上げ姿勢を維持していくことが見込まれますが、依然として金融環境は緩和的であり、国内金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1 万口当たりの費用明細 (2024年10月29日から2025年4月28日まで)

費用の明細

項目	第10期～第11期		項目の概要
	2024/10/29～2025/4/28		
	金額	比率	
平均基準価額	10,019円		作成期間の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	57円 (23) (33) (2)	0.573% (0.228) (0.329) (0.016)	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監査費用)	1 (1)	0.008 (0.008)	(b) その他費用＝作成期間のその他費用／作成期間の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	58	0.581	

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

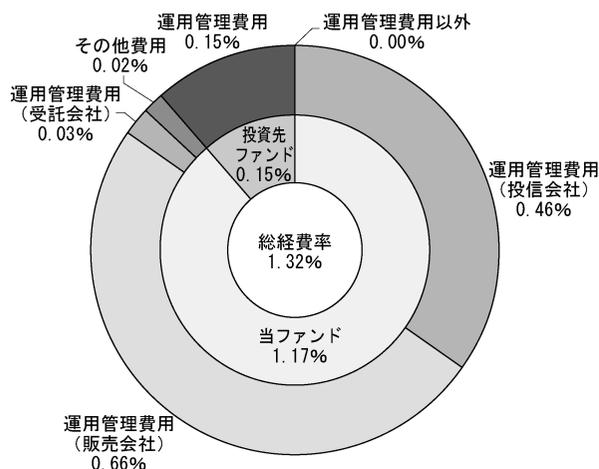
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く。)が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は、1.32%です。



総経費率 (①+②)	1.32%
①当ファンドの費用の比率	1.17%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.15%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く)です。

(注) ①の費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

売買および取引の状況 (2024年10月29日から2025年4月28日まで)

(1) 投資信託証券

		第10期～第11期			
		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国 (邦貨建)	U B S ユニバーサル・トラスト (ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定)(分配型クラス)	口 —	千円 —	口 30,929	千円 305,800

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

当作成期における設定、解約はありません。

利害関係人との取引状況等 (2024年10月29日から2025年4月28日まで)

当作成期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2025年4月28日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	前作成期末 (第9期末)	当作成期末(第11期末)		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
U B S ユニバーサル・トラスト (ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定)(分配型クラス)	口 356,586	口 325,657	千円 3,223,682	% 98.1

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	前作成期末 (第9期末)	当作成期末(第11期末)	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
マネーアカウントマザーファンド	17,939	17,939	17,959

(注) マネーアカウントマザーファンド全体の受益権口数は164,538千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2025年4月28日現在)

項 目	当作成期末(第11期末)	
	評 価 額	比 率
	千円	%
U B S ユニバーサル・トラスト (ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定)(分配型クラス)	3,223,682	97.2
マネーアカウントマザーファンド	17,959	0.5
コール・ローン等、その他	74,187	2.3
投資信託財産総額	3,315,828	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

損益の状況

2025年1月28日現在 2025年4月28日現在

第10期 自2024年10月29日 至2025年1月28日
第11期 自2025年1月29日 至2025年4月28日

項 目	第10期末	第11期末
(A) 資 産	3,482,904,919円	3,315,828,475円
コーラル・ローン等	83,413,993	74,185,628
UBSユニバーサル・トラスト (ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定)(分配型クラス)(詳細額)	3,345,251,716	3,223,682,226
マネーアカウントマザーファンド(詳細額)	17,938,175	17,959,702
未 収 入 金	36,300,000	—
未 収 利 息	1,035	919
(B) 負 債	76,480,023	30,196,622
未 払 収 益 分 配 金	17,008,910	16,391,971
未 払 解 約 金	49,113,987	4,260,574
未 払 信 託 報 酬	10,210,596	9,409,052
そ の 他 未 払 費 用	146,530	135,025
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	3,406,424,896	3,285,631,853
元 本	3,401,782,108	3,278,394,273
次 期 繰 越 損 益 金	4,642,788	7,237,580
(D) 受 益 権 総 口 数	3,401,782,108口	3,278,394,273口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	10,014円	10,022円

項 目	第10期	第11期
(A) 配 当 等 収 益	29,021,337円	27,779,970円
受 取 配 当 金	28,992,935	27,724,736
受 取 利 息	28,402	55,234
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	49,726,416	919,270
売 買 益	52,411,613	1,577,249
売 買 損	△ 2,685,197	△ 657,979
(C) 信 託 報 酬 等	△ 10,357,126	△ 9,544,077
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	68,390,627	19,155,163
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 56,608,541	△ 5,037,135
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	9,869,612	9,511,523
(配 当 等 相 当 額)	(26,246,651)	(25,295,244)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 16,377,039)	(△ 15,783,721)
(G) 合 計 (D + E + F)	21,651,698	23,629,551
(H) 収 益 分 配 金	△ 17,008,910	△ 16,391,971
次 期 繰 越 損 益 金 (G + H)	4,642,788	7,237,580
追 加 信 託 差 損 益 金	9,869,612	9,511,523
(配 当 等 相 当 額)	(26,246,651)	(25,295,244)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 16,377,039)	(△ 15,783,721)
分 配 準 備 積 立 金	29,195,134	30,284,915
繰 越 損 益 金	△ 34,421,958	△ 32,558,858

(注) 当ファンドの第10期首元本額は3,587,865,974円、第10～11期中追加設定元本額は9,099,226円、第10～11期中一部解約元本額は318,570,927円です。

(注) 第11期末の1口当たり純資産額は1.0022円です。

(注) 損益の状況の中で

(B)有価証券売買損益は、各期末の評価換えによるものを含みます。

(C)信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金の計算過程

[第10期]

計算期間末における費用控除後の配当等収益(25,204,736円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(26,246,651円)および分配準備積立金(20,999,308円)より、分配対象収益は72,450,695円(1万口当たり212円)であり、うち17,008,910円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

[第11期]

計算期間末における費用控除後の配当等収益(18,541,303円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(25,295,244円)および分配準備積立金(28,135,583円)より、分配対象収益は71,972,130円(1万口当たり219円)であり、うち16,391,971円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳 (単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	第10期	第11期
	2024年10月29日 ～2025年1月28日	2025年1月29日 ～2025年4月28日
当期分配金	50	50
(対基準価額比率)	0.497	0.496
当期の収益	50	50
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	162	169

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

※元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額がその後の新たな個別元本となります。

《お知らせ》

2025年4月1日適用で、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、信託約款の変更を行いました。

補足情報

マネーアカウントマザーファンドの主要な売買銘柄

公社債

(2024年10月29日から2025年4月28日まで)

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
第1287回国庫短期証券	849,726	第1287回国庫短期証券	833,762
第1286回国庫短期証券	514,765	第1286回国庫短期証券	469,804
第1283回国庫短期証券	406,921	第1283回国庫短期証券	406,894
第1280回国庫短期証券	402,890	第1280回国庫短期証券	402,926
第1269回国庫短期証券	331,192	第1254回国庫短期証券	394,984
第1220回国庫短期証券	238,939	第1269回国庫短期証券	321,938
第1257回国庫短期証券	209,498	第1220回国庫短期証券	229,953
第1254回国庫短期証券	178,988	第1257回国庫短期証券	209,484
		第1226回国庫短期証券	93,988

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

マネーアカウントマザーファンドの組入資産の明細

下記は、マネーアカウントマザーファンド全体(164,538千口)の内容です。

公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債<種類別>

(2025年4月28日現在)

区 分	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国 債 証 券	101,000	100,977	61.3	—	—	—	61.3
	(101,000)	(100,977)	(61.3)	(—)	(—)	(—)	(61.3)
合 計	101,000	100,977	61.3	—	—	—	61.3
	(101,000)	(100,977)	(61.3)	(—)	(—)	(—)	(61.3)

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は、原則として償却原価法により評価しております。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内(邦貨建)公社債<銘柄別>

(2025年4月28日現在)

銘 柄	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
(国債証券)	%	千円	千円	
第1238回国庫短期証券	—	40,000	39,991	2025/6/20
第1286回国庫短期証券	—	45,000	44,990	2025/5/12
第1287回国庫短期証券	—	16,000	15,996	2025/5/19
合 計		101,000	100,977	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

組入投資信託証券の内容

UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定) (資産成長型クラス)(分配型クラス)

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ケイマン籍/外国投資信託/円建
運用の基本方針 主な投資対象	担保付スワップ取引を通じて、実質的に代表的な日本の株価指数を原資産としたプットオプションを売却する想定上の取引戦略に対するエクスポージャーを提供することにより、中長期的な資本成長の提供を目指して運用を行います。
投資態度	①担保付スワップ取引を通じて、実質的に代表的な日本の株価指数(参照指数)を原資産としたプットオプション(期間約1ヵ月)を売却する想定上の取引戦略に対するエクスポージャーを提供することにより、中長期的な資本成長の提供を目指して運用を行います。 ②売却するプットオプションの権利行使価格をプットオプション構築時の参照指数値の92%とすることで、参照指数の下落による損失を低減しつつ、プレミアムの獲得を目指します。 ③資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。
主な投資制限	①原則として、店頭オプションおよび上場オプションへの直接投資は行いません。 ②空売りを行った有価証券の時価総額が純資産総額を超える有価証券の空売りは行いません。 ③純資産総額の10%を超える借入れは行いません。 ④一発行会社の発行済総株式数の50%を超えて、当該発行会社の株式に投資しません。 ⑤流動性に欠ける資産の組入れは15%以下とします。 ⑥投資運用会社は、自己または投資信託受益証券以外の第三者の利益を図る目的の取引等は行いません。
決 算 日	9月末日
分 配 方 針	(資産成長型クラス)原則として、分配を行いません。 (分配型クラス)原則として、3ヵ月毎に分配を行います。
投資運用会社	UBSマネジメント(ケイマン)リミテッド

※次ページ以降の記載は、組入投資信託証券の関係会社より入手した情報をもとに作成しております。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。

(1)(2)：UBS証券株式会社より入手した監査済報告書を、当社が一部和訳したものです。

(3)：ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン(シンガポール支店)より入手したデータをもとに作成したものです。

(1)各クラスの状況

作成基準日：2024年9月30日

	受益権総口数
資産成長型クラス	654,508口
分配型クラス	361,144
合計	1,015,652口

(注) 日付は現地基準です。

(2)損益計算書

計算期間：2023年10月1日～2024年9月30日

単位：円

収益	
手数料収入	293,736,046
担保付スワップ取引に係る純損益	(38,937,074)
収益合計	254,798,972
運用費用	22,383,689
運用費用合計	22,383,689
運用損益	232,415,283
分配前の期中の純資産変動	232,415,283
支払分配金	(271,352,357)
分配後の期中の純資産変動	(38,937,074)

(注) 日付は現地基準です。

(注) ()書きは負数です。

(3)組入資産の明細

作成基準日：2024年9月30日

担保付スワップ

単位：円

クラス	想定元本額	評価額
資産成長型クラス	6,545,079,796	6,893,278,042
分配型クラス	3,611,442,013	3,535,601,731
合計		10,428,879,773

(注) 日付は現地基準です。

マネーアカウントマザーファンド

運用報告書(全体版) 第30期(決算日 2024年12月10日)
(計算期間 2024年6月11日から2024年12月10日まで)

「マネーアカウントマザーファンド」は、2024年12月10日に第30期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
	円	期中 騰落率			
26期(2022年12月12日)	9,992	△ 0.0	—	—	400
27期(2023年6月12日)	9,989	△ 0.0	—	—	412
28期(2023年12月11日)	9,986	△ 0.0	—	—	1,911
29期(2024年6月10日)	9,983	△ 0.0	59.9	—	240
30期(2024年12月10日)	9,995	0.1	60.0	—	652

(注) 基準価額は1万円当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額		債 券 組入比率	債 券 先物比率
	円	騰落率		
期首(前期末) 2024年6月10日	9,983	—	59.9	—
6月末	9,984	0.0	60.3	—
7月末	9,987	0.0	63.6	—
8月末	9,988	0.1	64.3	—
9月末	9,991	0.1	60.0	—
10月末	9,993	0.1	60.1	—
11月末	9,994	0.1	60.1	—
期 末 2024年12月10日	9,995	0.1	60.0	—

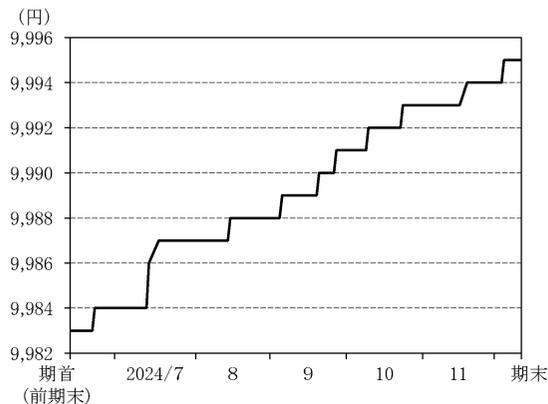
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の9,983円から期末は9,995円となりました。運用対象である国庫短期証券やコール・ローン等の利回りがプラスで推移したことから、基準価額は上昇しました。

■ 投資環境

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の0.02%から期末は0.15%となりました。期中においては、日銀による追加利上げへの警戒感や国庫短期証券の入札に伴う需給悪化懸念などが金利上昇要因となり、金融機関の担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券を60%程度組入れました。残りの資産については、コール・ローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

日本経済は、雇用・所得環境が改善する下で緩やかな回復が続くことが期待されます。インフレ率については、プラス圏で推移していくと予想されます。こうしたなか、日銀は利上げに向けた姿勢を維持していくことが見込まれますが、依然として金融環境は緩和的であり、国内金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2024年6月11日から2024年12月10日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2024年6月11日から2024年12月10日まで)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	1,633,548	1,296,447 (90,000)

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

(注) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

主要な売買銘柄 (2024年6月11日から2024年12月10日まで)

公社債

買付		売付	
銘柄	金額	銘柄	金額
	千円		千円
第1254回国庫短期証券	489,965	第1254回国庫短期証券	489,977
第1238回国庫短期証券	399,416	第1238回国庫短期証券	359,533
第1249回国庫短期証券	319,956	第1249回国庫短期証券	319,962
第1269回国庫短期証券	257,211	第1241回国庫短期証券	76,998
第1241回国庫短期証券	166,998	第1207回国庫短期証券	35,987
		第1226回国庫短期証券	13,986

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2024年6月11日から2024年12月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2024年12月10日現在)

下記は、マネーアカウントマザーファンド全体 (652,364千円) の内容です。

公社債

(A) 国内 (邦貨建) 公社債 <種類別>

区 分	当 期			末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国 債 証 券	391,300 (391,300)	391,122 (391,122)	60.0 (60.0)	— (—)	— (—)	— (—)	60.0 (60.0)
合 計	391,300 (391,300)	391,122 (391,122)	60.0 (60.0)	— (—)	— (—)	— (—)	60.0 (60.0)

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は、原則として償却原価法により評価しております。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内 (邦貨建) 公社債 <銘柄別>

銘 柄	当 期 末			
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償還年月日
(国債証券)	%	千円	千円	
第1226回国庫短期証券	—	94,000	93,938	2025/4/21
第1238回国庫短期証券	—	40,000	39,968	2025/6/20
第1269回国庫短期証券	—	257,300	257,215	2025/2/25
合 計		391,300	391,122	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2024年12月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	391,122	60.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	260,939	40.0
投 資 信 託 財 産 総 額	652,061	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	652,061,729円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	260,937,431
公 社 債 (評価額)	391,122,848
未 収 利 息	1,450
(B) 純 資 産 総 額 (A)	652,061,729
元 本	652,364,714
次 期 繰 越 損 益 金	△ 302,985
(C) 受 益 権 総 口 数	652,364,714口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (B / C)	9,995円

損益の状況

当期 自2024年6月11日 至2024年12月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	380,793円
受 取 利 息	380,793
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	17,888
売 買 益	68,983
売 買 損	△ 51,095
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	398,681
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 403,200
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 2,869,277
(F) 解 約 差 損 益 金	2,570,811
(G) 合 計 (C + D + E + F)	△ 302,985
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	△ 302,985

(注) 期首元本額 240,676,248円
 期中追加設定元本額 2,882,869,277円
 期中一部解約元本額 2,471,180,811円

(注) 元本の欠損
 当期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は302,985円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.9995円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額の内訳

デジタルヘルス株式ファンド	8,778,101円
Jプレミアム・インカムファンド(年1回決算型)	27,771,792円
Jプレミアム・インカムファンド(年4回決算型)	17,939,969円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(インド・ダブルプル9)	20,025円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(インド・ダブルプル9)	20,025円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(中国・ダブルプル9)	20,025円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(中国・ダブルプル9)	20,025円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(ナスダック100・ダブルプル9)	20,025円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(ナスダック100・ダブルプル9)	20,025円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(金・ダブルプル9)	20,025円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(金・ダブルプル9)	20,025円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ9(マネープールファンド9)	597,714,652円

(注) 損益の状況の中で

(B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(F) 解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。